



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(4)

【概要】

令和 6 年 9 月 20 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 4 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、実験を通した理科への興味をきっかけに子どもたちの就学意欲を芽生えさせたいという目的で行っています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は全国でも数少ない活動で、平成 17 年に当時の工学系研究科 児玉 浩明 教授（現佐賀大学長）が始めてから現在まで継続して今年で 20 年目であり、これまでに数多くの大学生、大学院生がボランティアとして参加してきています。

令和 6 年度第 4 回は 9 月 20 日(金)に理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに理工学部理工学科生命化学コースの学部生が「炎の色はどんな色？」と題して炎色反応の理科実験とともにアロマキャンドルを作るワークを行いました。

エタノールを染み込ませたコットンにヨウ化カリウム、塩化リチウム、塩化ストロンチウム、塩化銅、水酸化バリウムなどの金属塩をのせ、着火することで炎に着色する様子を観察してもらいました。子どもたちは照明をおとした教室の中でエタノールが燃え尽きる頃まで炎の様子をじっくり観察して、見えた色を記録していました。

続いて炎にちなんだ実験としてアロマキャンドルを作るワークを行いました。子どもたちは市販のロウを湯煎で溶かしたのち、好みの色にクレヨンで着色して、さらにアロマオイルやバニリンを含ませました。芯を入れた型に静かに溶けたロウを注ぎ込んでオリジナルキャンドル作りに取り組んでいました。今回は参加者も多く、みんな熱心に取り組んだため教室での時間が足りないほどでした。



「理科実験教室」の様子